

連載 学級崩壊への対応と予防①

関係づくりを行う「朝の声かけ」 島本政志

崩壊していた学年開き

「おれらの担任さつさと発表しろや！」
「どんなやつが担任でもつぶしたるわ！」
体育館に響きわたる声。そして無数の奇声。
5年生以下の担任以外のすべての教師（校長含め12名）で子ども達101名を囲む。
一部の子たちが遅刻で体育館に入ってくる。

金髪、ガム、スマホ。標準服ではない。入
口で待機する教師がその対応を行う。

体育館内では教師への挑発が続く。

「静かにしましょう。」

「静かにしましょうって、お前の声の方が
うるさいやんけ！まず、お前が黙れよ。バ
ーカ」

立ち上がりバスケットボールのリングに飛
びかかる子。対応する教師。その様子をみ
て10人が「ギャハハ、ええぞ」そのまま、

ふりきつたれ！」「やったれ！」と声を上げ
る。

8割の子ども達が崩れている。座ってい
るが私語を止めない。学年主任が呼びかけ
るが止まない。収まらない。校長が一喝す
る。瞬間、静かになった。

「静かに聞こうとしている人もいます。え
らい。ぶれずに頑張っている。」

「学校のすべての先生がみなさんを応援し
ています。」

そして、問題行動があった場合はさまざ
まな教師が関わること、安心して過ごせる
ように先生たちは全力で努力することを伝
えた。

そして学年目標「笑顔あふれる1年間にし
よう」を伝える。

「バーン！バーン！」

外から体育館の壁とドアを蹴っている音が
響く。学年開きが終わった。

これは私が体験した、すでに崩壊してい
た6年生の様子です。このような体験から
崩壊に至らないようにするための予防や対
応について連載を通して考えていきたいと
思います。

異動しました。現任校は研究推進校とい
うこともあり退勤時間がそもそも遅いです。
午後10時でも職員室にまだ複数の教師が
残っていることが頻繁にあります。ある日
は帰宅が0時を回っていました。前日の退
勤時間にもありますが、それでも何とかが
んばって、子どもが登校してくる8時前ま
では教室に行くようにしています。

①関係づくり

授業が始まってしまうと、指導する、指
導を受けるという関係性で時間が進んでし
まいます。

現任校は休み時間が5分しかありません。
教室移動や授業準備なども含めると、子ど
もと雑談する余裕さえ十分にはありません。
だからこそ、早めに行きます。そして声
をかけます。

「お、教室入るの1位!」

「昨日、習い事どうやった?」

「宿題、やってきた?」

と話しかけます。話しが0よりも、少しでも、一方的な声掛けでも無いよりましです。

関係性があれば指導が入りますが、特に高学年は関係性ができていないと指導は聞いているふりだけで、十分に入らなくなります。

②個別指導の時間

宿題の漢字のノートをチェックして付箋も貼って「直しましょう」と伝えても、しない子がいます。

でも、朝にノートを目の前に提出させ、その場で「ここを直しておいで」と言えば、赤ペンを入れる手間も省けますし、チェック機能も働きます。

私は忘れっぽいので、宿題の回収をし忘れることがあります。そうなると子どもも「宿題チェックないから、やらなくても大丈夫や」となってしまいかもしれません。そのようなことが無いようにできる手立ての一つです。

あまり話しかけられるのを求めているような高学年の女の子には「宿題を持ってきてください」と言います。

その際に「おお、綺麗な字で書いているなあ。見やすいし、〇〇さんががんばっているの、先生もうれしいわ」「最近、学校どう?」などと、関心をもっているよ、見ているよということが伝わるように話しかけます。

提出する宿題がないようなときは、あえて「手紙をくばってくれへんかな?」と頼んだり、その子のノートなどは配りの係に頼んだりせずに直接渡すようにします。1日のうち一度も会話や声掛けが無かったということが無いように気をつけています。

③余計なトラブルの防止

荒れた学級では、教師不在の際に器物破損が何度も生じます。教室の鍵が木製で、〇年〇組と書かれていた部分がえぐり取られていたこともあります。おそらく彫刻刀か何かで削ったのだと思います。

こうなると、余計な指導が増えてしまいます。やった人はだれかと問うても名乗り

ませんし、このように詰め切れずに翻弄されている教師の姿は荒れた学級をさらに荒れさせてしまう原因になります。

また、普通の学級でも、教師不在の間にけんかが始まったということを何度か体験しています。

私は下手ですが将棋をします。

将棋では先に自分の得意とする陣形を組みます。

トラブルが発生しているような状態の教室で朝をスタートさせることは避けたいものです。

